

幼稚園と母

倉 橋 惣 三

「このたびは入園させて頂きまして、ありがたうございます。なに分よろしくお願ひ申します。」

「おめでたうございました。」

「もうく安心でございます。一切お任せいたして置けばいゝ子になれますので。」

「いえく、そうではありますまい。」幼稚園は神様ではありません。御信心だけではすみませんよ。ハ……」

「と申されますと」

「おさいせんを上げて拜んでゐれば御利益があるといふ程、效驗あらたかじやないのです。任せるなんて大間違ひですよ。心得ちがひといふ譯でせうか。これは聊か言葉が荒過ぎますが」

「はあ」

「幼稚園は幼稚園で一牛懸命です。しか

し、なんといつてもあなたのお子さんですからね。あなたの方が一生懸命でなくては、ほんどうのことは出来ません。」

「さういふ風にいたしましたら」

「なに別段特別のことでありませんがね。第一、幼稚園とたえずよく聯絡をとつて下さらなくては。中には、幼稚園へ我子を入れたつばなしで、受持の保母さんと一度も、ゆつくり會つたことがないといふ人がありますからね。」

「つい忙しいと」

「それは御もつともです。ひまなお母さんのお子さんより、お忙しいお母さんのお子さんこそ、幼稚園としても一層力をおつくしてゐるのです。が、いくらお忙しいくても時たま幼稚園をお訪ね下さる位の事は出来ませう。おつとめの都合で時間がおあ

【文協推薦圖書】(幼児向)

ムカシバナシ(五―七歳)和田三造監修

この繪本は畫壇の泰斗和田三造氏の監修になるもので、桃太郎、金太郎、舌切雀、浦島太郎、一寸法師、癩取等人口に膾炙した日本昔噺十一篇を一編一場面宛に描いたものである。關英雄氏の文は各昔噺の「山」といふべき個所を取上げ、これに四季の自然と時間的な背景を巧みに結びつけてある。八島造外氏によつて描かれた繪も各昔噺の持つ性格に應じて、例へば桃太郎、金太郎の繪は逞しく、カギヤ姫は柔い筆致と温和な色彩で、浦島太郎は夢幻的に、といふ風によくその特質を表現し得てをり、和田三造門にあつて童畫に研鑽する氏等の精進の跡著しいものがある。以上の如く、この繪本の一頁々々が楽しい物語を含み、更に母親が話して聞かせる手段ともなるもので、一冊で豊富な内容を持つ昔噺繪本として五歳から七歳程度の幼児向として推薦する。

定價・三十五錢 日本橋區江戸橋二ノ八
寶雲舎 松坂ビル

ポクラノ貨物列車(六歳―八歳)
周郷博文
高橋庸男畫

從來の汽車の繪本はその殆どが客車を描いたものであつたが、この繪本はそれとら異り、淋しい北國の山や寒い夜の森、

りないなら、お打ちあはせして、保母さんあれが大間違ひです。お互同志の協力ですの方でお待ち申しませう。田舎では、田のもの、そんな一方的の關係じやありません。あぜでおあひするといふことも出来ませう。都會では、そういうふことも出来ませう。ではどういふ點で」

「それはいろ／＼あるでせう。我子の性質なり體質なり、家庭事情なり、澤山ありませう。それに應じてゆきたいのが幼稚園の任務ですからね」

「いえ、そんな母の教育じやありませんよ。お子さんのことに就ての、實際のお打ちあはせです。」

「充分お叱りいたゞきまして」

「いやですねえ。またそんな叱るなんていふことがありませうか。どうも、家庭が學校や幼稚園に對して、被告のやうな態度に出るのは、一番いけないね」

「はい」

「はいでは恐れ入ります。もつとほんとうを申せば、お母さんの教育上の御熱心と開

「お打ち合せですよ。といふよりも、家庭の御注文が澤山承りたいのです。幼稚園と

家庭の聯絡といふと、幼稚園から注文されることだけのやうに思ふ風がありますが、

「お打ち合せですよ。といふよりも、家庭の御注文が澤山承りたいのです。幼稚園と家庭の聯絡といふと、幼稚園から注文されることだけのやうに思ふ風がありますが、

恐ろしい吹雪の中を、日夜黙々として絶えず働いてゐる貨物列車をも情緒豊かに描いたものである。繪本の繪として、は地味な色彩ではあるが、兒童と親しいものも積んだ貨車の形だけでなく、その動感や走る環境をもよく表現し得てゐる。乗物に取り、又時局に對する教育的意義も濃厚なものと、して六―八歳の兒童に推薦する。

(定價・四十錢)

二 ビキノコグマ (六一―八歳)

千葉省三文
鈴木壽雄畫

この繪本は三匹の可愛い子熊を扱ひ、楽しい物語二篇を載せたものである。その一つは三匹協力して蜂の巣をとる話。他は親の許しを得ず勝手に遠歩きして一匹が人間の子供に捕へられ、それを母熊が夜中人里に出て、鋭い嗅覺で探し出し、物語は何れも兒童に理解し易く、やさしい言葉で書かれてゐる。繪は特に新しい手法を用いたものとはいへないが、内容にふさはしく、繪圖に可愛く描かれてゐる。全體として兒童への生活指導と科學的の愛情の溢れたものである。上述の理由により、兒童に推薦する。

(定價・五十錢)

國民社

神田區西船田二ノ四